令和5年度

熊本県中体連ソフトテニス競技大会要項　申し合わせ事項

1　組み合わせ、およびシード権と抽選について

(1) 団体戦の組み合わせは専門委員会で協議し、代表者会で抽選を行う。

(2) 個人戦の組み合わせの方法は、専門委員会で協議し決定する。組み合わせ抽選会議を各地区予選前に代表者会と別日に設け、各地区専門理事（地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）枠担当専門理事含）が代表して抽選を行い、代表者会で公開する。

(3) 団体戦及び個人戦は、春の熊本県中学生ソフトテニス選手権大会（県中体連共催大会）のそれぞれベスト4の地区または地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）をシードする。尚、県選手権大会が行われなかった時は、熊本県中学生新人ソフトテニス大会（同共催大会）で同様にシードする。それも行われなかった場合、シードは専門委員会で協議し、決定する。

2　監督会議および選手変更について

(1) 団体戦前に「監督会議」を、個人戦前に「個人戦監督会議」を行う。選手・監督・コーチの変更は以下の通りとし、所定の手続きでそれぞれの監督会議までに行うこと。

① 個人戦の場合

ペアのうち1名が事故・病気等で大会へ出場不可能となった場合、県専門部長に届け出て、同一校で1名のメンバー変更ができる。2名ともに出場不可能な場合は棄権とする。原則として「個人戦監督会議」までの届け出とする。

② 団体戦の場合

参加申込をした選手が事故・病気等で大会へ出場不可能となった場合、県専門部長に届け出て、同一チームからメンバー変更ができる。原則として「監督会議」までの届け出とする。

(2) 生徒指導上の選手変更は一切認めない。個人戦においては1名であってもそのペアを棄権とする。団体戦の場合には当該選手を団体登録8名からはずし、新たな選手の補充は行わない。

3　ベンチ入りについて

(1) 審判台から見て左側のベンチを、番号の小さいチーム・ペアとする。

(2) 団体戦・個人戦ともベンチ入りは監督・コーチとする。団体戦ではベンチ入りする監督・コーチは試合開始時の挨拶にたちあうこと。監督は必ずベンチに入ること。ただし個人戦で試合が複数同時に行われる場合は、それぞれのベンチにどちらかが入ることを原則とする。マッチの途中でベンチを入れ替わったり一度離れたベンチに再度もどることはできない。選手がコートを離れて監督・コーチのベンチまでアドバイスを聞きに行ってもよいが、この時間も1分30秒以内とする。サイドコーチは禁止する。団体戦において2面展開以上で行う場合の監督・コーチのベンチの位置は試合を行なっているコートの中央とする。ベンチの移動や準備、片付けはチームで行なう。

4　熱中症対策等について

監督は熱中症対策として水分補給に充分配慮し、本部が認める範囲内において、または正審が競技に支障がないと判断する範囲内において、水筒・うちわ・パラソル・ターブ・日傘・コールドスプレー・塩分タブレット・クーラー・キーパー等をベンチに準備してよい。チェンジサイズ時のみならず、チェンジサービス時やファイナルゲームのサイドのチェンジ時も、指定された審判台付近での給水・塩分補給を、遅延行為・サイドコーチの対象とならない範囲において認める。日常の体育授業・部活動で使用している学校独自で作成したキャップの着用を認める。外側・内側とも反射材の入った銀色等の日傘、および白色系の雨傘はプレーに支障をきたす場合があるので、応援者も含めて使用をひかえるが、これ以外の傘はベンチで使用してもよい。マッチ中の選手の状況によって、レフェリーとの協議なしに、ペア以外（監督・コーチ・救護・応援関係者内の医療従事者等）の手当を認める。団体戦において、試合が終わった選手はベンチから離れてダウン等の処置を行ってもよい。ただし試合終了時の挨拶にたちあうこと。状況によって気温35℃以下であってもヒートルールを適用することがある。熱中症対策のため、プレー中はシャツの裾を出してもよい。プレー中以外、シャツの裾を出さない。挨拶時にはシャツを入れる。

5　試合進行等について

(1) 団体戦のオーダー票は2部作成し、1部は対戦相手が決まり次第本部に提出し、1部は整列時に相手チームと交換する。オーダーは本部提出を正とし、提出後の変更・訂正は認めない。試合が連続する場合には、原則として15分間、時間をあける。

(2) 試合前の乱打は1分間とする。試合前のトスでサイドが決定した時点からストップウォッチで1分間計り、電子ホイッスルを鳴らしてレッツプレイをかける。サイドのチェンジの際の監督・コーチのアドバイスは十分な水分補給させた上で生徒をベンチに座らせて行い1分30秒以内とする。副審はストップウォッチを使い1分15秒で電子ホイッスルを鳴らす。続く15秒後に再度鳴らすと同時に正審が「レッツプレイ」をかけても動きがなければ警告とする。（ソフトテニスハンドブック競技規則第15条「ポイントの終了から1分以内に次のポイントを開始する体勢に入るものとする」）

(3) ポイントごとに選手同士の話や握手等で故意に時間を稼いだりして試合の進行を妨げている場合は警告（イエローカード）となる。（ソフトテニスハンドブック競技規則第15条 （2）ア・イ・ウ）

(4) コートに入ったらすぐに挨拶すること。挨拶前後の監督・コーチからの指導は一切禁止する。個人戦および団体戦第一対戦のペアは挨拶の時にラケットをもって整列し、挨拶後はそのままコートに残りすぐに試合を行うこと。

(5) 団体戦・個人戦の5位以降の繰り上げ順位は、1位に負けたところを5位とし、6位以降同様とする。

(6) 団体戦で2ペアしかないチーム同士の対戦で1対1になった場合は、次のア・イにより勝者を決定する。記録は「②－1」とする。
ア・両チームの得失ゲーム数・ポイント数を比較して決定する。
イ・アの規定により勝者が決定できない場合は、代表ペアの決定戦をファイナルゲームで実施する。尚、代表ペアは、ベンチ入りしているメンバーの中から改めてオーダー提出するものとする。

6 選手・監督・コーチの、ユニフォーム・ゼッケン・服装・用具等について

(1) 選手のユニフォーム・用具には新たにデザイン等を入れないこと。プレー中以外、シャツの裾を出さず、挨拶時にはシャツを入れること。

(2) 選手・監督・コーチは別に定めるゼッケンをつける。

(3) ストリングに装着する衝撃吸収材・装身具は使用しない。

(4) 選手のアンダーシャツ・ロングアンダータイツ、サポーター、テーピングを使用する場合、その色はステッチ等も含めて単色とする。

7 ゼッケンについて

(1) 選手はゼッケンを各チームで作成し、背中の中央につける。ただし、四隅を留めるものとする。

① 表記については、参加申込書に届け出たとおりの表記とする。文字色は「黒」とする。

② ゼッケンは、B5版大横〈白地〉（縦約18㎝×横約26㎝）の布などに都道府県名、学校名・チーム名と姓を記述する。県名の「県」の文字はつけない。中学校は「中」と表記する。

③ ゼッケンをシャツそのものへプリントすることは認めない。

④ ゼッケンで同名のチームがある場合には、区別をするためにチーム名の工夫をしてもよい。ただし、各地区ごとに望ましい表記をすること。

⑤ ゼッケンの文字の位置は，下図例1のとおりとし，同一チームに同姓の選手がいる場合には、下図例2のように選手が区別できるための「名の1文字」を付け加えること。

⑥ チーム名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合、チーム名をわかりやすくするために、下図のように学校所在地を付記してもよい。

⑦ チーム名が「〇〇中学校」の場合は〇〇中と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については中をつけずに、適当な表記で表現する。地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）名は登録通りの表記とする。

選手ゼッケンの例 《 熊本県 八代市立第一中学校 上村 占魚・上村 占一ペア 》

横 26㎝

縦 18㎝

熊 本
上 村 一
八代第一中

1／4 都道府県名（都府県は不要）

2／4 姓
（選手が区別できるための「名の1文字」）

1／4 チーム名（中の文字をつける）

(2) 監督・コーチは以下に定めるゼッケンを胸部につける。つけ方は特に指定しない。

① 大きさは縦10㎝、横15㎝とする。布などで作成し生地の色や文字色・字体は特に指定しない。

② 『都道府県名・チーム名・【監督】または【コーチ】』と記述し、学校名の後に「中」の文字はなくてもよい。他の表記は選手に準ずる。

監督ゼッケンの例《熊本県熊本市立清正中》 コーチゼッケンの例《熊本県 熊本RAINBOWS》

横 15㎝

縦 10㎝

熊 本 清 正
監 督

1／3 都道府県・チーム名

2／3 監督・コーチ

熊本 熊本RAINBOWS
コーチ